

## ◆ 議 場 公 演 ◆

のせにんぎょうじょうるりろっかくざ  
～能勢人形浄瑠璃鹿角座による「人形浄瑠璃」を上演～

出 演 者 能勢人形浄瑠璃鹿角座

演 目 『能勢さんばそう』

『三番叟』は、能に古くから伝わるお祝いの舞です。開幕前の祝儀として歌舞伎や人形浄瑠璃にも移入され、全国の民族芸能に取り入れられています。

『能勢三番叟』は、全国に向け歌詞募集を行い1998年に制作されたものです。男女カップルの人形が舞う、全国でもめずらしいオリジナルの三番叟で、歌詞には能勢町内の名所・特産物・地名などが織り込まれています。

### 【能勢人形浄瑠璃鹿角座について】

能勢町では、江戸時代から今日までおよそ200余年にわたり「能勢の浄瑠璃」が語り継がれています。

もともと、人形を用いない「語り」と三味線だけの「能勢の浄瑠璃」は、能勢の文化的風土のもとで庶民によって創られ、伝え続けられている地域芸能です。

この「能勢の浄瑠璃」を守り育て、次の時代へ提案・発展していくため、1998年に人形・囃子を加えた人形浄瑠璃がデビューしま

した。≪能勢人形浄瑠璃鹿角座≫という

名称のもと、毎年6月の定期自主公演をはじめ

年間30件以上の外部からの依頼公演を受け、

活動しています。



【参考】能勢三番叟の歌詞

## 能勢三番叟

### 能勢オリジナル

**注** 釈

その昔……今から昔い大昔  
土曜……朝延(天皇)に城編や十郎などつ  
くつて献上した工人の集団  
しおう……たいへん名の知られた  
郡里……昔の郡や津村の呼び名  
朝ぼらけ……朝日が顔を出してあたりが明るく  
なつたころ  
謡い歌……自分で歌を作って、相手に返り相  
手はそれに答えて歌を作る  
りん……さぞと  
ぞ……「で」意味を強めること「大言甘言  
言いなすまで  
立ちのぼる……宵や白の煙が空に向かっすんず  
ん昇つていく意味  
夕まぐれ……夕方のうす暗いころ・夕暮れ  
歳重ねた……年(年齢)をとった・長い年月をか  
さねた  
二白三黒……能勢の名産の産物 三白(米・カ  
ンチン・コウヤクワフ) 二黒(栗・  
牛・粟)  
暇八分目……お暇いっぱいはいまいで好こと  
ほろ酔いかげん……よいかげんに酔っていること・爽し  
く話せる程度の酔い  
玉鬘焼……米・麦・あわび・豆の五つの作物  
がよく焼けること  
おつな味……気のきいた味  
いのこ……十一月の冬の日に豊作を祝って寒ま  
わること  
いせこ……一月十一日に神宮の神様を村の  
人が集まって祭ること  
あらか……京都の東門(南)に大寺がたこんない  
ふうじ村の人が集まって祭ること  
屋敷……幕代から移してはじめて田圃(す  
ゑ)に田かつかって成茂を初ること  
みやび……上品でもていまいこと  
ほろち……白でに御堂な持術を持つていこと  
よら舞え、そら舞え……みんなお祭り集まって遊ばなくどんぞ  
どんと舞え……みんなお祭り集まって遊ばなくどんぞ  
よらこびありあ……よろこびがあるよ

その昔 十師連の名にしおう  
能勢の郡里の朝ぼらけ  
歌垣山の謡い歌 りんと立ちたるササユリの  
甘きかおりぞ吹き匂う  
立ちのぼる煙焼く煙 夕まぐれ  
歳重ねた大げやき  
能勢の二白三黒も暇八分目とほろ酔いかげん  
五穀豊饒おつな味  
人もけしきも歴史もおいし オーイふるさと 祝い酒

いのこ いせこ あたこ 曲書(カクガ)にみやび  
力持ち 知恵もち 技持ち きりよう良し  
東舞 歌垣 田尻 天王 栄え栄えよ既尼 久左々  
仲間持つてる オーイふるさと のせ二番

みこし だんじり 冷るり音頭  
よら舞え そら舞え どんと舞え  
みんな舞つてる オーイふるさと のせ二番  
よらこびありあ よらこびありあ と 舞い納む

☆後半部分のみの上座

【参考】能勢三番叟の上演の様子



※歌詞、写真ともに浄るりシアターから提供